



滝田医院ニュース

022-0001 岩手県大船渡市末崎町字細浦77番地 滝田医院
電話0192(29)3108 内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・リハビリテーション科

日本内科学会認定総合内科専門医・日本循環器学会認定循環器専門医 滝田 有

第16号

発行日 2008(平成20)年9月2日

院長が再び診療を休む理由

目次:

手術のため診療を	1面
休みます。	
診療体制	1面
検査する意味	2面
サービス業との違い	2面
「天職」?	2面

6月5日から院長・滝田有が診療に復帰し、早3ヶ月が経過しました。火曜日から金曜日まで週4日の診療ながら、体調はすこぶる良好です。患者さんも徐々に以前の数に戻りつつあります。胃カメラや心臓超音波検査など、臨床検査も順調に行っています。このような中で、再び脳の手術を受けるため、9月5日から一ヶ月間、診療を休むことになりましたので、皆さんにご報告します。

今年1月に倒れたのは、左中大脳動脈というところに出来ていた血管のふくらみ(瘤)が破裂したためのものでした。ところが検査すると、もう一箇所、前交通動脈という血管にも瘤があることがわかりました。これはまだ破裂していないので「未破裂動脈瘤」と言います。これが破裂すれば二回目のクモ膜下出血を起こすこととなります。今年は奇跡的に

社会復帰が出来ましたが、今後クモ膜下出血で倒れたらどうなるかわかりません。破裂する確率は年に1%程度ですが、微々たる数字と思うかもしれませんが、しかし今年48歳になる院長が平均寿命まであと30年近く生きるとすれば、単純計算で通算30%は破裂の危険があるという事です。

従って今後皆さんのために医院を運営し地域医療に貢献するためにも、この「動脈瘤」を破裂しないように処理する必要があります。

再復帰するのは10月中旬からの予定です。院長不在中は毎週火曜日午前、午後ならびに水曜日午前中、東北大学循環器内科から新進気鋭の医師が交替で応援診療してくれる予定です。



今後の診療について

毎週火曜日(午前、午後)
水曜日(午前中) です。

①9月9、10日 ②9月16、17日

③9月30、10月1日

④10月7、8日 ⑤10月14、15日

9月23、24日は休診となります。

院長復帰：10月中旬からの予定。

9月、10月の診療体制について。

①9月9、10日 ②9月16、17日 ③9月30、10月1日
④10月7、8日 ⑤10月14、15日のように、今後は火曜日全日と水曜日午前中の診療体制となります。院長が倒れていた期間と同様です。

担当は東北大学循環器内科の医師です。いずれも以前一回は当院で診察して下さった先生方です。

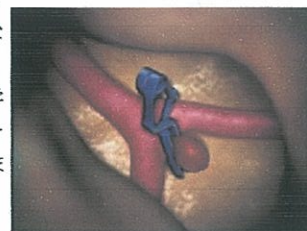
なお、9月23、24日は休診となりますので、ご注意ください。今まで週4回だった診療が週2回になってしまうので、通常よりも待ち時間が長くなってしまいかもれません。ご容赦下さい。

予約患者さんは既上記の日程に合わせて予約を入れていますが、臨時に受診したい方、新しく受診したい方はあらかじめお電話を頂くと助かります。

(平日には職員が電話で対応します。)

なおインフルエンザ予防接種は例年通り11月から開始する予定です。接種の予約は院長が復帰した後から受け付けます。もう暫くお待ち下さい。

下の図は未破裂動脈瘤に対する「開頭クリッピング手術」です。専用のクリップを用いて動脈瘤の根元を挟み込み、破裂、出血しないようにします。日本脳外科学会のホームページから引用しました。



「検査」は本当に大事なのか？

「めまい」の患者さんは多い。大部分は耳からくるめまいが多い。耳はものを聞くだけでなく体のバランスを取る(平衡感覚を司る)臓器のひとつである。この耳の働きが一時的に乱れると「良性発作性頭位めまい」という病気を起こす。経験的にこの地域ではこのようなめまいが多いような気がする。

ある日、やはりめまいを訴えた患者さんが受診した。この患者さんは主に歩き始めにめまいを強く感じるとの事だった。上の「良性発作性頭位めまい」とはちょっと違うような印象を持った。

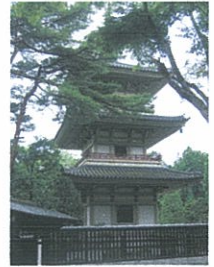
既に数軒いろいろな医者にかかっていた。耳鼻科のいろいろな検査は勿論受けていた。脳CTやMRIもとっていた。薬もいろいろだされたがパッとしないと言う。

そこで私はある簡単な「検査」をやってみた。高

級な機械を使ったわけでもない。まず座った状態で血圧を測ってみる。その後、血圧計をつけたまま立ち上がってもらい、立ったままで血圧を測りなおしてみた。立ち上がった瞬間、患者さんは派手によろめいた。血圧は30mmHgくらい下がっていた。「起立性低血圧」と診断して薬を出した。その患者さんのめまいは段々良くなっている。

何も高価な医療器械を使った訳でもないが、病気によっては簡単な検査や症状を聞く「問診」だけで的確な診断が見つかる場合がある。

高級な機械を使った検査だから万能というわけではない。また機械を使った検査で何も出てこないから、病気ではないとは言いきれない。勿論、検査でなければ判らない病気もあるが、検査で全てがわかる訳でもない。この辺のところが患者さんはよくわかってほしい。



輪王寺三重塔 (仙台市)

医者はサービス業か？

去る1月～5月まで東北大学循環器内科から、診療応援してくれた先生方から、当院の感想を頂いた。その一つは前回掲載した中野先生のものであった。その後10人近くの先生方から感想を頂いたが、全ての先生から「カルテは良く書けている」とお褒めの言葉があった。後輩に当たる先生方からそのような批評をもらうのは私は最大の褒め言葉だと思う。他の医者から貰う最高の「勲章」だ。開業医はどうしても独りよがりの診療になりがちだが、最新の知識を持った第三者から「カルテが良い」といわれるのは本当に嬉しい。

また職員も大変良くやっていると褒められ

た。患者さんの数が集中して混み合ってしまう、職員の対応にも不満を持った患者さんもいらしたかと思う。しかし今回は特別な事情であったため是非ご勘弁を頂きたい。

「医者はサービス業だ」という論調が蔓延り、患者さんでもそう思っている方がいるようだ。しかし私はサービス業だとは思っていない。サービス業とはお客さんを快適にするものだが、医療は患者さんを快適にするものではなく健康にするものだ。



1962年3月 仙台にて

診察室から

私の半生を顧みる。成人までは、両親のおかげで何不自由なく育てられた。それなりの苦労はあったが国立大学を出て医者になった。職を決めるに当たって、「家業がそうだったから」というのが大きかったかもしれない。

ところが30歳で母親を、40歳で父親を夫々亡くし、50歳を前に自分自身が大病となり、危うく亡くなる場所であった。自分で言うのも変だが、今回の大病で「一皮剥けた」ような気がする。病める人

の気持ちがわかる。また病める人を肉親を持った人の気持ちがわかる。こんな医者は実は結構珍しいのだ。だんだん「天職」だと思えるようになってきた。この「天職」を全うするために、今回の手術も成功しなければならぬし、まだまだ頑張らねばならない。

ちなみに今回は個人的なお見舞いは固くお断りします。気持ちだけ頂いておきます。